

平成26年度 YMG看護部 認知症研修 グループワーク

【事例】

アキオさん 75歳

アキオさんは、2年程前からもの忘れが多くなり、アルツハイマー型認知症と診断されました。やがて、タバコを買いに行ったきり家に帰れなくなるなどがたびたび、みられるようになった半年ほど前、アキオさんは老人保健施設に入所されました。アキオさんはもともとプライドが高く、気難しい性格のうえ、怒りっぽいせいかな友人は、できにくいようです。たまに大声で怒鳴ったりすることのあるアキオさんですが、特に最近では、イライラして落ち着かない様子で、よく廊下をふらついていました。そんなある日の昼食時のことです。

みんなでお昼ご飯を食べていると、アキオさんがそわそわ落ち着かない様子で今にも席を立とうとしています。 <場面1>

スタッフはすぐに駆け寄り
スタッフ:「アキオさんどうしましたか?」「まだご飯の途中ですよ!」と言って肩に手をかけ、
スタッフ:「席に座ってください」とアキオさんに座るように促しました。 <場面2>

するとアキオさんは、びっくりした様子でスタッフの手を払いのけ、少し語気を荒めて、
アキオさん:「だれだ!もういい!」と言うと廊下の方に歩き始めます。 <場面3>

スタッフは、そんなアキオさんの興奮している様子が恐くなり、すこし離れながら後について行くことにしました。アキオさんというと、時々後ろを振り返っては、何やらブツブツ言いながら、どんどん早足になります。そして玄関まで行くと外へ出て行こうとしました。 <場面4>

スタッフは慌てて
スタッフ:「アキオさん、外に行ったらダメですよ!」「息子さんが後で迎えに来ますから!」
と言って駆け寄り、アキオさんの腕を掴もうとしました。
するとアキオさんは、突然もの凄い剣幕で怒鳴りながら、持っていた杖でスタッフに殴りかかってきたのです。 <場面5>

ひもときテキスト改訂版 参照

◆ 1G

1.アキオさんの気持ち

- 場面① トイレに行きたくて立ったのか
タバコを吸いたくて
食事が終わっていた
物を取りに行きたくなくなった
- 場面② 声を掛けられて驚いた
肩に手をかけられて強制させられた
- 場面③ 理解してもらえない悲しみ
- 場面④ 後ろから知らない人が追いかけてくる恐れ
- 場面⑤ やりたいことを抑えつけられた

3.自分だったらどう対応をするか

- 場面① そわそわしている時点で声かけを行う。
- 場面② 返答を待つ
- 場面③ 名前を名乗る。再度本人の訴えを聞くべきだった。
- 場面④ 違うスタッフが対応する。
- 場面⑤ 「ダメ」という言葉を使わずに本人の訴えを傾聴すべき。

◆ 2G

1.アキオさんの気持ち

- 場面① 用事が気になった
- 場面② 原因があつて動いたのに静止させられて不愉快
- 場面③ ビックリ
- 場面④ ほっといて欲しい。煩わしい。
追いかけているような気持ち
- 場面⑤ 静止が2度目で不愉快な気持ちが強くなった。

2.スタッフの対応とその影響

- 場面①
- 場面② } 手をかけたことで驚かせてしまった。
- 場面③ }
- 場面④ 距離をあけて付いて来ることで、追いかけているような気持ちにさせてしまった。
- 場面⑤ かけよった事、腕を掴まれた事で恐怖感が強くなった。

3.自分だったらどう対応をするか

- 場面① 注意しながら様子を見守る。
- 場面② } 直ぐに声を掛けるのではなく、少し待ってから声を掛ける。
本人の意図を確認する。
- 場面③ } 肩ではなく、背中に手を添える。
- 場面④ 肩ではなく、背中に手を添える。
- 場面⑤ 寄り添って一緒に歩く。

◆ 3G

1.アキオさんの気持ち

- 場面① 生理的欲求があった。
(トイレに行きたい、たばこが吸いたい……)
- 場面② 急なスタッフの対応でびっくりして目的を忘れた。
- 場面③ 目的がわからなくなって不安になった。
- 場面④ この人は嫌でついてくるから逃げる
- 場面⑤ 追いつかれて身体を触ろうとしてきたから恐怖感から身を守ろうとした。

2.スタッフの対応とその影響

- 場面① 理由を聞かれずも強く言われた為、プライドが傷ついた。
- 場面② 急に強く言われたからアキオさんにとって気にくわない対応をされたから怒った。
- 場面③
- 場面④ 少し後ろからついて行く事で追いかけている。
- 場面⑤ 追いついて腕をつかもうとしたから防衛反応から暴力

3.自分だったらどう対応をするか

- 場面① 様子をうかがい静かに近づき、理由を聞き、返答を待つ。
- 場面② 座る事は促さない。
- 場面③ もし返答が無ければヒント的な事を聞く。
または、いつもの習慣で何か抜けていた事はないか考える。
- 場面④ もし歩きだしてしまった場合には、歩くことは制止せずに離れても横を歩く。
- 場面⑤ 易怒的になったり落ち着かない場合は、スタッフを変えて対応してみる。

◆ 4G

- 場面① トイレに行こうとしたのでは、ないか？
元々喫煙をしていたが、老健に入所してから、タバコが吸えなく、タバコを自販機まで買いにいこうとしたが、自分の要求を伝える事が出来なかったのでは。
- 場面② いきなりかけ寄って肩に手をかけたことに驚いた。スタッフの声の掛け方(矢継ぎ早だったか)は、どうだったのか。
- 場面③ 誰か分からない人に不意に手を掛けられたことに驚いた。
- 場面④ 誰か分からない人が後ろからついてきた恐怖心があったのではないか。
- 場面⑤ スタッフの口調が強かったと考えられる。
アキオさんは抵抗しようとしたのではないか。



性格を踏まえて自尊心を傷つけない対応が必要だと考えられ、肩に手をかける前に「どうしましたか？」と尋ねるべきだった。スタッフも座り、目線を合わせ、腰を低くする等して、話す機会が必要だった。「最近元気がないですね」や「何か気になることがありますか？」と尋ねても良かった。どこかのタイミングでスタッフを変えて対応しても良かった。交替するとアキオさんの対応も変わったのではないか。「私も用事があるから」等と声を掛けて一緒に外へ行っても良かったのではないか。

◆ 5G**1.アキオさんの気持ち**

- ・ 入所したばかりで不安
- ・ トイレに行きたい
- ・ タバコが吸いたい
- ・ 帰宅願望があった。

2.スタッフの対応とその影響

- ・ 理由を聞かずに押さえつけられて怒った。
- ・ 驚かせてしまった。
- ・ 最初の関わりで興奮させてしまった。
- ・ 行動を否定された気持ちになった。
- ・ 知らない人に追いかけられ、逃げているのに追われ、腕を掴まれたから怖くなり暴力。

3.自分だったらどう対応をするか

- ・ 理由を良く聞く。
- ・ 原因をよくアセスメントして対応する。
- ・ 食事中でも無理に座らせない。
- ・ フロア内での散歩へ誘導する。
- ・ 良く知っている職員に対応を替わってもらう。
- ・ 気分が害させてしまったことへの謝罪をする。
- ・ 本人へ、選択する余地を与える。
- ・ 日頃からスタッフ間で利用者の情報を共有する。